

等友

S
60
10
1生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
真宗大谷派
勝龍山
等覺寺
住職
朝倉創



お彼岸でお花いっぱいの永代供養墓

平成30年4月
第106号
責任編集
朝倉 翔

往生は、なにごともなにごとも、
凡夫のはからいならず、

如来の御ちかいに、まかせまいらせたら
ばこそ、他力にてはそうらえ。

ようようにはからいおうてそうろうらん、
おかしくそそうう。

往生ということは、何事においても、私たち凡夫
の思いはからいではなく、阿弥陀如来のお誓いに
一切をおまかせするからこそ、他力というのであ
ります。

それぞれの思いはからいで往生できるとかできな
いなどと考えること 자체、おかしなことでありま
す。

「毎日法語 第3集 声に出して味わう教え」

東京教区教化委員会 広報出版部

住職から一言

お彼岸が過ぎ、ほっと一息つける時期を過ぎております。

みなさまお花見は行かれましたでしょうか？花粉症でそれどころでない！という方もいらっしゃるかもしれませんね。

先日のお彼岸法要でもお話ししましたが、同じ事柄でも人によつては、環境によつては、時代によつてはまるで異なるものになります。

詳しいことは別紙にあります。お気軽にご見学ください。

また五月には真宗・仏教の教えをわかりやすくお話する「いのちのふれあいゼミナール」が開催されます。今回は僕が大好きな先生のまはこういったことを「因縁生起」（縁起）として教えてくださいました。この続きはまた次号にでもお載せいたしますので、ぜひご覧ください。

さて前号にも少し紹介しましたが、ペットのお墓が完成いたしました！

以前からペットをお飼いの方に、一緒の場所でお参りしたいという要望を頂いておりまして、ようやく完成となりました。石屋さんにお墓のデザインを何度も作り直してもらい、納得のできる、みなさんに喜んでいただけるお墓が出来たのではないかと自負しております。

◎報恩講

行事報告



新井義雄先生

真宗門徒にとつていちばん大切な行事、報恩講を昨年十月にお勤めいたしました。今は等覚寺でも初めて先生をお招きしてご法話をいただきました。そこで今回は先生のご法話をあえて話し言葉そのままで少しご披露させていただきます。お招きしたのは、東京都中野区の高徳寺ご住職新井義雄先生です。

今ご紹介をいただきました、中野区の高徳寺というお寺をおあずかりしています、新井義雄と申します。いろんなご縁でこの等覚寺さんとお付き合いをされていると思うんですね。大切な方を亡くされたご縁とか。代々こ

に皆さまいろいろなお支度をして、そしていろんな所から来て今座っているっていうのはそんなんことを邪魔するご縁がなくて、ここにお参りに来るというご縁が全て整つたってことですね。こういうのをおかげさんって言うんですね。陰っていう字に「お」と「さま」を付けます。陰なるはたらき。空気とか水

とか今日のご飯とか、着物とか作ってくれた方とか。いろんなものが陰となつて働いて今私となつていてるつていうのがおかげさんですね。そういう意味では本当にこの報恩講も先ほどの御俗姓御文に書かれているように、親鸞聖人の三十三回忌のご法事を期にずっと七百五十回忌以上毎年法事をされてるんです。親鸞聖人のご法事ですからね、報恩講。そして御俗姓御文の中には『聖人のご恩を報謝しようとする志のない者は全く枯れ木や岩石のようなもので』って書いてありますね。枯れ木や岩石、今日報恩講にお参りに来れなかつた人は枯れ木や岩石だつていうことですね。激しい言い方ですね、『枯れ木か岩石のよう』つて、もう人間じゃないんですから。報恩講にお参り来ない人は人間じゃないつて言つてるわけです。なぜでしょう。皆さん親鸞聖人つてご存じですか。会つたことありますか。会つたことない。私もないです。顔も

見たこともないし、しゃべったこともない。遺産も遺してくれたわけでもないし。自分の先祖でもない人の法事を毎年全国的にどの真宗のお寺でも七百五十年以上もやつてるんですよ。これどういうことですか。ご自分のお家のご両親亡くされた方はご両親とかご兄弟とかお子さんとかいろんな方の法事とか。あとおじいちゃん、おばあちゃんとか。ご法事されますけど、ひいおじいちゃんとか、ひいおばあちゃんとか、ひいひいおじいちゃんの法事はなかなかしないでしょ。

親鸞さんの法事つていうのは、本当の教えというのを伝えてくれたそのご恩に報いる集まりで報恩講つて言うんですね。親鸞聖人がお亡くなりになつてお浄土に還つていかれたのは千二百六十二年の十一月二十八日でした。九十歳。すごいですね、八百年ぐらい前に九十歳つていうのはあり得ないでしょ。

は縁のある人で二十八日様と呼ばれた毎月二十八日に親鸞聖人のご遺徳を縁に集まつて仏法を聞くというお講がありました。今は本山では十一月の二十一日から二十八日の一週間をかけて報恩講が勤ります。全国からご門徒の方々が集まつてお参りされます。高徳寺や、この等覚寺さんみみたいな末寺はその一週間をずらしてお勤めするんです。重なると本山にお参りに行けないですからね。

今日目が覚めて、ああ、ありがたいなって

思つた人、います？ 私は今朝ああ雨降つてるな、とかいろいろ思いましたが、ありがたいとは思いませんでした。ああもうこんな時間だとか。そしてさらに言うと、今日私は死ぬつもりで生きていません。明日も予定があり、明後日も予定があるし、その先も来年もずっと予定があります。死ねません。でも、今日縁が尽きたら死にます。でも死ぬつもり

で生きてないでしょ。そういう思いで私たち生きています。思い。この自分の思いが自分を苦しめていますよって仏教は教えてくださいます。その思いとか心つていうことを、こう言うんです。煩惱。除夜の鐘突いたことがありますか。お経には八万四千の煩惱が備わつていて書いてあります。もう数え切れないと、百八。除夜の鐘、百八つ突きますね。これは身を煩わせるわけですね。そして心を悩ませるわけです。

以前、尊敬しているあるご住職に煩惱つて泥だと思うんですと話したことがあります。泥つてシャワーで洗い流すと取れるじゃないですか。そんなもんですかって聞いたら、「あなたね、あなたが泥人形なんですよ」と言されました。私自身が煩惱でできていまます。煩惱が付いてるんじやなくて、煩惱ででいていますと。だから煩惱を消すと私がいな

くなっちゃうわけです。分かりますか。だから除夜の鐘っていうのは自分をいなくさせる鐘なんですよ。自分が生きてる間は煩悩はあるでしょ。だからもうしつちやかめつちやかになってるわけですよ。だから仏様っていうのは、煩悩、執着から解放されるから安らかなお顔でしょ。私たちはこう、人前だとすましてるけど。あらきれいですね、力バンが。とか言うと、ちょっとむつとするじゃないですか。かばんか。あたしじゃないのって。絶対この電車に乗らなきゃいけないって思つて走つてるのにぶしゅーっとドアが閉まるみたいな。前にいる乗らない人がゆっくり歩いて乗れなかつたとか。あるでしょ。



等覚寺の本尊
阿弥陀如来のお顔

そういうふうに自分の思つてることができるない、とんでもないことになっちゃうじゃないですか。あと泣くのもそう。もう『ひよっこ』って終わっちゃいましたけど連ドラ見てましたか？ 私ももう欠かさず見てて。

何回か泣きましたけど。あれって今日は良い場面だから泣くぞって思わないでしょ。なんだか見てたらじんわりきて、なんか恥ずかしいけど涙が出てしましたとか。あと笑うのもそうですね。これらても笑っちゃうでしょ。ぶつぶつと噴出してご飯粒が相手の顔に付いちやつたとかないですか。今日もお齋で危ないですけど。そういうふうに身を煩わして心を悩ませるのが煩悩。それは私ですってことですよ。私が煩悩です。それで、私は煩悩ですよっていうことが仏法で教わるということなんですね。そんなこと思つてないでしょ。の人とあの人はそうかもしれないけど私は違うって、思うでしょ。そういったことを親

鸞聖人が正信偈の中で何ておっしゃってるかって言うと。『還來生死輪転家、決以疑情為所止』って書いてあります。これを訳すと『人々がいつまでも生と死の中でどうどうめぐりをして迷いの家に帰りついてしまるのは、きっと仏の願いを疑っているからに違ひない』という意味です。浄土真宗のご本尊は阿弥陀如来ですね。お立ち姿の阿弥陀如来。南無阿弥陀仏って言っているけど、なんかあつたら自分を頼りにしませんか。まだまだ私は自分でできます。きっと仏の願いを疑つていい。そんなお願い言つたって、どうせ叶う人と叶わない人がいるんでしょとか。だから。私も宝くじを買ってすぐ南無阿弥陀仏。住職になつて思つたんですけど、お寺つて維持するの大変なんですよ。何かが故障したら業務用だから金額が大きい。あっち直したら今度はこっちが壊れたつて。お金つて大切で

しょ。お金のことをお坊さんが言うと、またあの人お金のことばっかり言つてつていうけど本当に大変。だからこのサマージャンボで当たつたら、前後賞いらぬから、一等賞だけでもいいからつて思うわけです。だけど当たらないんですよ。ご縁があれば当たるんですけど。お念佛称えても当たらない。阿弥陀様のフルネームが南無阿弥陀仏って言うんですけど、知つてますか。釈迦牟尼仏とか不動明王とかいろいろ仏さまいます。あとお経に妙法蓮華経つていうのがありますが、これに南無を付けると南無妙法蓮華経つて言うでしょ。このように普通はこの「南無」は自分のほう、人間のほうから付けて言うんですけど阿弥陀さんだけは「南無」も元々付いてるんですよ。不思議でしょ。そもそも南無阿弥陀つていうのは、インドの言葉です。それが中国に伝わった時に音を漢字で当てたわけですが、阿弥陀は量り知れない命という

意味。これを無量寿って言いますね。南無は

帰依します、信じますっていうことです。なんで阿弥陀さんの名前には南無も付いているかつて言うと、阿弥陀さんてああいう形をしてますけど、本当は真実であり無限なんです。人間はどうあがいても百三十歳ぐらいまでしかいかないでしょう。有限ですよ。あと、この中に今日の今日まで一度もうそをつかなかつた人は一人もいないでしょ、多分。私もついてますから。そうすると真実じゃないんですよ、不真実。有限で不真実な人は、無限で真実なる者に触れてないどこかにすつとんでいつてしまう。だから不真実なものが、どんなに正座して精神込めて言つても雑が残るので、阿弥陀さんはそういうのもお見通しで自分のほうに南無を付けている。だから逆に言えば寝つころがつてでもお手洗いの中で、この後のお齋でご飯飛ばしてるときでも南無阿弥陀仏っていうのはもう完璧に真実の

言葉です。

あるお寺の掲示板にこんなことが書いてあって面白かったですね。『孫自慢、嫁の悪口同じ口』って書いてありました。私は嫁じやないのであれですけど、思い当たるじやないですか。この同じ口から出るんです。南無阿弥陀仏も。ね、だからそういうのもお見通しで南無まで付いている。安心してどんなときでもお称えくださいよって。

この南無阿弥陀仏は教えでもあるんです。正信偈に『五劫思惟之攝受』って書いてありますね。五劫ってとんでもなく人間が計れなん長い時間なんですよ。百六十キロ平米の立方体の石があつたとするでしょ。それに百年に一回天女が降りてきて、すーっと袖で石をなでる。その摩擦で石がなくなるのが一劫。掛ける五。だからもうあり得ない。そのぐらい長い時間をかけて、そうだ言葉になろうって言つた仏さまが阿弥陀さん。等覚寺さん

のも本当にいいお顔をされます。あそこにいらっしゃいますけど本当は皆さんのお口から出るお念仏が阿弥陀さん。南無阿弥陀仏って言うと、どんな人が言つてもはたらきます。何がはたらくのか。その言葉になつた仏さま、南無阿弥陀仏です。私たちはすれ違ひだつたり、自分勝手に解釈したりするでしょ。で、一番厄介なのが比べるつてこと。いいなあの人は順風満帆そうでとか。ああこの人も幸せそう。ああこの人よりはちょっとといいかなとか。比べて生きてます。今ここに私があるっていうことが本当に尊いのに。それが見えない。もう外ばっかり見ちゃう。これが厄介ですね。

蓮如上人つていう方がいます。親鸞聖人から数えて八代目の方。この方が「そのカゴを水に浸けよ」って言つてます。この仏法の水がおいしいから、カゴに入れて持つて帰ろうと思つてもカゴは編んでるから水がもれちゃ

うでしょ。持つて帰つてる間にもうなくなつちゃうわけですよ。だから水に浸けとけばカゴに水はいっぱいじゃないですか。というようく、こういうご縁があつたらどんなことでもいいです。お寺さんに通つても、ご本を読んでも。お内仏（仏壇）の前でお念仏しても、なんでもいいから常に仏法。仏法領の中にいなさいよつて意味ですね。一番いいのは朝起きるでしょ。目が覚めたら寝たままでいいですから南無阿弥陀仏って言つてみてください。それで一日過ごすでしょ。で、床につく時にもまた南無阿弥陀仏って。そうするとお念仏の一日になります。それだけでも水にカゴを浸けてることになります。

蓮如上人



それで、そういう南無阿弥陀仏。これは阿弥陀さんからの願い、本当のお願いがはたらくなっていますね。浄土真宗のご本山はどこですか。京都の本願寺さん。本願寺さんの本願。これが阿弥陀さんの願いですね。実は私たちの奥底に本願が、私も皆さんも、どこの国の人も、いつの時代の人も同じ本願があるんです。だけど私たちは煩悩でできてますから全然気が付かない。それをこのお念仏申すたびに、どうか本願に気が付いてくれと阿弥陀さんから願われるわけです。先ほど比べてしまつて言いましたね。あの人はいいなとか。もう誰とも比べる必要ないですよ。だからその本願つて阿弥陀さんの本当の願い、私たちの奥底にあるこうなつたらいいなっていう願いは、誰とも比べる必要のない天下一品のこの私を堂々と生き生きと生きたいなという願いです。それが本願。それを教えてくれるのがお経であり、お念仏なんです。で、お念仏っていう

のは先ほども言いましたけど阿弥陀さんがお口から出るわけです。それでその本願がはたらく。どうか誰とも比べない、比べる必要のない天下一品のあなたを堂々と生き生きと生きちようだいねつて。毎回言うと毎回はたらくわけです。

昨日うちのお寺の報恩講で他の寺の住職さんがいっぱいお見えになつて、一緒にお勤めしましたけれど、そのご住職におでんを出したんですよ。お齋ですね。卵つて白いでしょ、煮卵にすると何日かたつと変わつてくるでしょ、色が。大根もそうですね。大根もいい色になつてくる。そういうようになつてくることを薫習（くんじゅう）つて言うんですね。染み込むんですよ。

お念仏を朝起きたときと夜寝るとき一回ずつでも二回でしょ。お念仏するたびに染み込んでいく。それをずーっと毎日。それで、おじいちゃんの命日だからとか、お内仏やお墓

の前で手を合わせたりする。今日も報恩講で何回でもいいです、お念仏するたびに、どうか、自分のその誰とも比べる必要のないあなたを堂々と生き活きと生きてくれって染み込んだわけ。そうするとある日、煩惱の耳栓がぼろっと取れて、本当にそれが響くときがあります。さっきも言いましたね、『ひよっこ』見て泣いちゃったとか。映画観て泣いちゃったとか。レコード聴いて涙が出たとか。そういうふうに自分の思いを越えたはたらきに響くことがあるんです。そうすると、もうどんな状況状態になつても、自分を最後まで縁が尽きて亡くなるその日まで歩むことができます。これがお念仏の救いですよ。そう

じゃなかつたら、ずっといいないなつて比較して亡くなつていつたらですよ、幽霊にでもなつて出てこないと辻褄が合わないでしょ。幽霊の髪が長いのは、過去とか後悔を表している。後ろ髪引かれるとか言うでしょ。そし

てこの下がつた手、これ未来とか欲望。あれもほしいなとか。もっと長く生きたいなとか。足は無いでしょ。あれは今という所に立てない。今を見失つてゐ姿ですつて昔あるご住職から聞きました。それ聞いたときには、ああ、じゃあ幽霊は俺自身なんだつて思った。いつもでももう取り返しのつかないことをぐちぐち思つたりするし。明日も明後日も生きるつもりでいるからね。そして今立つてない。そういう姿が幽霊だとしたら、お念仏に出遇つてですよ、教えに出遇つて、自分というものが一点ものに仕上がるなんかつたら、なんで生まれてきたんでしょうかってことになりますね。

自分とはなんぞやつていう、それを問うのがわが人生の根本問題であるつて、ずっと言われてます。この親鸞聖人のご法事にご縁としてそういうことをいただくのがこの報恩講にお参りに来た石や木じゃない人たち。枯れ

木とか岩石だつていうのはそういうことなんですよ。こういうことをいただいて、自分に自分はどうかな、なんで親鸞さんのお法事勤めなきやいけないのかな、こういうことを伝えてくれたからでしょっていうことをいただかないとですね、なんのために生まれてきたんですかってなっちゃうでしょ。

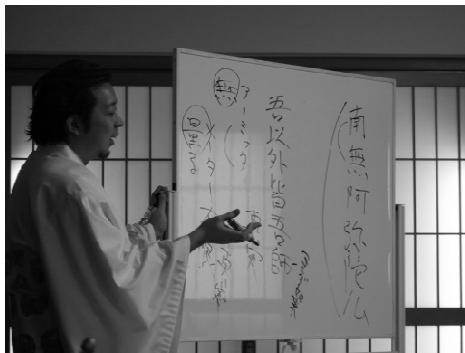
でも等覚寺さんも本当に一生懸命やられてですね。先ほども受付にはお坊ちゃんもいらっしゃってですね。偉い。しかもそこで正信偈を大きな声でお勤めしてましたね。六歳ですよ。私十歳で親父に騙されて京都で頭をくりくりにして得度しましたけど。それまで正信偈なんでもう知らなかつた。お寺にいるのに。もうのんびりぶらぶらしてましたから。なので、すごい偉いと思いました。それもこの環境ですよね。お父さん（住職）がですよ、何もしないで、その辺で遊び歩いてたらもう多分お坊ちゃんは正信偈を今日はお勤めして

ない。皆さんもそうでしょ。なんで今日お勤めできるかつて言つたら慣れ親しんでるからでしょ。その慣れ親しんでることがとても大事なんですね。真宗門徒の生活はそういうお念仏を唱えること。それから、カゴを水に浸けるんです。自分というカゴを水に、仏法の水に浸ける。これだけですよ。あとはもう娑婆（この世）で努力してお金もうけしようが、お友達いっぱい作ろうが、おいしいもん食べようがいいんです。なんでもやつてください。このそれぞれの生活の中で仏法を聞くのが真宗門徒の生活。この娑婆自体が修行ですね。だから絶対とは言いません、思い出した時だけでいいですから、南無阿弥陀仏とお声に出して称えていただいて、これから歩んでいただきたいと思います。



◎新年会

毎年恒例、また新年を迎えた慶びを楽しくみなさんと感謝する新年会を今年もお勤めすることができました。その雰囲気をお写真でご紹介させていただきます。参加されたこと無い方はぜひ次回、ご参加されてみてください。



まずはお参りと聞法(法話)



お参りの後は
楽しいお食事とハジカラ♪



参加者募集中！

○等友旅行会

まだ行き先は何も決まっていませんが、
日程だけ決まりました！

日時 七月一日（日）～二日（月）
予定費用 三万円前後

○勉強会

・いのちのふれあいゼミナール

五月十九日（土）午後二時～

場所 報恩寺（地図は別紙参照）

・仏教入門＆なぜなに真宗

初回 五月十三日（日）午後二時～

毎月第一日曜日（行事の月以外）

場所 等覚寺

備忘録 ～お焼香作法～

○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまで
お待ちください。順番には決まりはないので、
施主の方から前に出て「お焼香ください」

○お焼香作法

・焼香机の前に進み、合掌せずに「本尊を仰ぎ
見ます。赤い香盒（香入れ）の蓋を開けて香盒
の右に置きます。

・右手でお香を二回、香炉にくべます。（お香を
額に頂くことはしません）お香の乱れを指先
で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌
礼拝します。

・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのま
まにし、最後であれば蓋を閉めて自席に戻り
ます。

備忘録　～法事の準備～

○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をし、「家族で法要希望日をお決めになりお早めにお寺へ」連絡ください

○当日必要なもの

- ・お布施

- ・お花代（本堂にお飾りする

お花代で、一万円の実費）

○「希望」によってお持ちください

- ・お供物

- ・過去帳やお位牌

- ・遺影（小さじもの）

○服装は平服でも結構です。

（「参加される方同士でお話しされてお決めください」）

※お寺へお包みいただく表書きは全て「布施」と書いて
いただければ結構です。浄土真宗の場合は「読経料」

「」靈前「」といふ言葉は用いません。

備忘録　～お葬式について～

○事前の「相談もお気軽に

亡くなられた後ではバタバタとしてゆつくり
検討する時間がありません。お寺に「連絡
いただければ葬儀までの流れなど」不明、
「不安な点の「説明もさせていただきます。

○葬儀の場所

基本的にどちらでも伺わせていただきます。
遠方でも泊まりがけでお勤めさせていただい
ておりますので気にせずに「依頼ください。

また、可能な方はぜひお寺で「葬儀を。故人が
生前「縁のあつた等覚寺の本堂で、あたたかく
お「そかな」葬儀をする」とができます。

○葬儀の布施

「」の時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤め
の対価ではありません。亡くなつた時を「縁に
お寺の護持のためお納めいただくものです。ど
うぞお気軽に「」相談ください。

備忘録 ヘビ納骨について

〇、納骨のみはお受けできません

一般的の墓地を「利用の場合、浄土真宗の教義に則つて、葬儀式をお勤めしてからの「納骨となります。（永代供養墓は除く）

式のやり方の「希望等」に相談に乗れる部分はありますので、必ず火葬前に「連絡ください。

ご披露

等友へのご懇意

亀田弥様 浅井京子様 鈴木きみ子様

高橋健治様 加藤伊知郎様 鳴海恵三様

福原修一様 山本一正様 （順不同）

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。この等友誌や等友会は、こうしたご支援から成り立っています。

編集後記



こんにちはー。釋翔雲です。お彼岸が過ぎてやつと春がやつてきましたね。けれど僕は花粉症・・・お参りにいらっしゃる方とお話しすると鼻がむずむず、法事前には点鼻薬をして鼻の通りをよくする、やることがいっぱいです春を楽しむ余裕も無いくらいです（笑）昨年お勤めした報恩講では、初めて外部の先生をお呼びして「法話」をいたしました。そこで今回はいつもと違つて話し言葉のまま法話を文字に起こしてみましたが、いかがでしたでしょうか？先生の優しく楽しげな語り口調が伝われば幸いです。そもそも旅行会なのですが、今年はまだ行き先も決まっていません・・・。鋭意検討中ですので、ぜひぜひ予定だけはあけておいてくださいね！

平成三十年行事予定

五月十三日（日）

仏教入門 &
なぜなに真宗

五月十九日（土）

いのちのふれあい
ゼミナール

七月一日～二日

等友旅行会

七月十三日～十六日

お盆

七月十五日（日）

盂蘭盆会法要

十時半～
十三時半～
一般の方

九月二十日～二十六日 秋季彼岸

十月二十八日（日）

報恩講

◎お気軽にご参加ください。

平成三十年年回表

一周忌

平成二十九年

三回忌

平成二十八年

七回忌

平成二十四年

十三回忌

平成十八年

十七回忌

平成十四年

二十三回忌

平成八年

二十七回忌

昭和四年

三十三回忌

昭和六十一年

三十七回忌

昭和五十七年

三十三回忌

昭和五十年

四十三回忌

昭和四十七年

四十七回忌

昭和四十四年

五十回忌

昭和四十四年

七十回忌

昭和二十四年

百回忌

昭和二十四年

大正八年